

統合実習

I 目的

修得している知識・技術・態度を統合し、看護実践ができる。また、臨床現場に近い体制の実習を通して、医療チームの一員としての行動ができる。

II 目標

1. 複数の対象に必要な看護を臨床判断の思考を用いて考えることができる。
2. 複数の患者の看護を行い、多重課題の中で看護の優先度を判断し看護を実践する方法を理解する。
3. 質の高い看護を提供するための看護管理について理解する。
4. 看護活動が円滑に行なわれるためのチームリーダー・チームメンバーの役割を理解する。
5. 多職種との協働と連携の必要性について理解する。
6. 組織としての医療安全の取り組みを理解する。
7. 看護者としての姿勢・態度を身につけ、積極的に自己の向上に努めることができる。

目 標	行動目標・内容
1. 複数の対象に必要な看護を臨床判断の思考を用いて考えることができる。	①患者の状態判断において有用で最も関連した重要な情報（コンセプト）に着目できる。 ②患者の状態をアセスメントし、計画立案、看護実践、評価ができる。 ③複数患者を受け持ちながら、患者の状態について気がついたこと、予測できること、実際に行う対応について考えながら患者に援助できる。 ④指導者、グループメンバーとの振り返りを通して、自己の臨床判断を振り返り、次回どのようなするかを考えることができる。
2. 複数の患者の看護を行い、多重課題の中で看護の優先度を判断し看護を実践する方法を理解する。	①グループ内の複数患者の病態、症状、検査、治療、看護について状態の把握ができる。 ②既習の看護技術に関連統合し、対象の状態に合わせた技術が実施できる。 ③グループ内の複数患者の状況から援助の優先度を判断し、必要な看護が実践できる。 ④病棟看護師と行動を共にし、複数の患者の優先度の決定と時間管理の必要性、多重課題への対応について考えることができる。
3. 質の高い看護を提供するための看護管理について理解する。	①病院の理念、看護部の理念を知る。 ②病院組織の中の看護部の位置づけがわかる。 ③病棟管理者の役割と仕事内容がわかる。 ④看護の質を向上させるための体制について述べられる。
4. 看護活動が円滑に行なわれるためのチームリーダー・チームメンバーの役割を理解する。	①チームリーダーの役割が述べられる。 ②チームメンバーの役割が述べられる。 ③看護チームがどのように連携しているのか述べられる。 ④個々の看護師の動きが、チーム全体に影響することが述べられる。

5. 多職種との協働と連携の必要性について理解する。	①多職種連携がなぜ必要なのか、実習での学びを通して述べられる。 ②多職種連携のために何が必要なのか自己の考えを述べられる。
6. 組織としての医療安全の取り組みを理解する。	①病院内で安全対策がどのように行なわれているのか述べられる。 ②看護部としてどのように取り組んでいるか述べられる。 ③個々の看護師の責任がわかる。
7. 看護者としての姿勢・態度を身につけ、積極的に自己の向上に努めることができる。	①報告、連絡、相談ができる。 ②グループメンバーと協働できる。 ③自分の言動に責任が持てる。 ④積極的に実習に取り組むことができる。

Ⅲ 実習単位

3 週間 2 単位 90 時間

Ⅳ 実習病棟

滝川市立病院 3 階西、4 階東、4 階西、5 階西、6 階西

Ⅴ 方法

1. 受け持ち患者へのケア

- 1) 患者を 1 名受け持ち、実習記録Ⅰに沿って患者の情報収集とアセスメントを行い、看護実践・評価する。(実習 3 日目から看護実践ができるように考える)
- 2) 日々の実施内容は実習記録Ⅱに沿って考え、記載する。その際、患者の状態で追加すること、新たな解決すべき課題、看護計画の変更などが生じた場合は実習記録Ⅰに追記する。
- 3) 受け持ち患者が退院した場合は別の患者を受け持ち、常時患者を受け持つ。

2. 複数患者のケア

1) 学生メンバー実習 (実習日数：3～4 日間)

- ①病棟メンバー実習を行なっている学生以外の者(2 名)で行なう。
- ②学生メンバー実習を行なう学生の受け持ち患者と、病棟メンバー実習を行なう学生の受け持ち患者を受け持つ。
- ③患者のケアでは、患者の状態について気がついたこと、予測できること、実際に行う対応についてその場で考えながら患者に援助するよう意識する。(臨床判断)
- ④毎日、実習終了時には、指導者、グループメンバーとの振り返りを行う。
- ⑤他学生の受け持ち患者については、受け持ち学生からの情報だけでなく、電子カルテからも情報収集し状態を把握する。
- ⑥行動計画をメンバーで相談し、指導者に報告してから実践する。
※学生間でリーダーを決め、時間内に全ての看護を実施できるように計画的に行なう。
- ⑦病棟メンバー実習を行なっている学生に、その日の結果を記入し、遅くとも翌日に渡す。
- ⑧毎日実習終了前に時間を確保し、全ての学生が集まり、その日の受け持ち患者の看護実践や翌日の予定についてなど情報共有する。

2) 病棟メンバー実習 実習日数：3 日間

- ①看護師と 1 日行動を共にし、看護師が受け持つ患者に関わる。

- ②看護師が受け持つ患者の情報は前日か当日に担当看護師より教えていただく。また、必要があれば各自電子カルテからも情報を収集する。
- ③看護師と共に患者のケアを実践し、看護実践の根拠や実習中に起こった多重課題、その判断について積極的に質問する。
- ④薬物療法に関する指示受けと安全な実施、医療用消耗品・備品の管理システム等について見学する。
- ⑤転棟、転院などがあれば看護師に同行し、病棟－在宅、病棟間での一貫性・継続性のある看護提供システムについて学習する。

3. 管理について

病棟管理者と半日行動を共にし(学生3～4名同時)、看護管理について学ぶ。

4. 多職種連携について

- 1) 受け持ち患者のチームカンファレンスや多職種との連携場面に参加し、チーム医療の必要性と看護の役割を理解する。
- 2) 多職種(医師・管理栄養士・理学(作業)療法士、社会福祉士など)との連携場面を意識して見学し、多職種連携の必要性を理解できるよう行動する。

5. 実習最終日に学内でグループワークを行い、他病棟の学生と学びを共有する。

- 1) 看護チームへの参加、及び看護管理での学びを共有し、自己の課題について話し合う。
- 2) 上記については、各自グループワークができるようにまとめておくこと。
- 3) グループワークには、指導者と教員が加わる。
- 4) グループワークの学びをもとに、「この実習での学びと課題」をまとめ2部印刷し、レポート提出時に一緒に提出する(1部はレポートにとじ、もう1部は病棟師長に渡す)。
この実習では「受け持ち患者を通して学んだこと」は不要。

6. 実習前に技術のチェックリストを確認し、経験が必要な技術について学習し、経験できるようにする。

7. 評価について

実習2週目で一度、自己評価を行うこと。グループでカンファレンスを行い、各自の自己評価から不足している部分を出し合い、後半の実習取り組みについて検討する。